

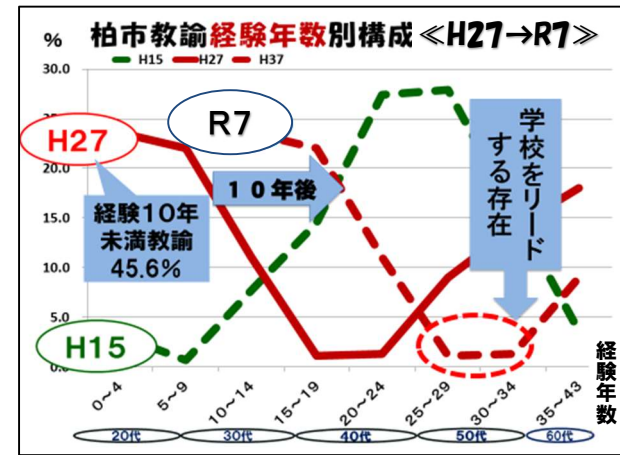
柏市教職員人材育成指針

I 人材育成指針策定の趣旨

- 社会が急激に変化し、学校教育を取り巻く課題は複雑化・高度化し、今までの経験や方法では対応しきれない状況がある。
- 教職員の大量退職・大量採用により、指導力や指導技術の継承が困難な状況がある。
- 教職員の人材育成を意図的・計画的なものへ転換するため「柏市教職員人材育成指針」を策定する。

II 人材育成を取り巻く現状と課題

人材育成と環境の変化		
	昔(1981/S56)	今(2023/R5)
社会	拡大/知識	縮小/創造
学校規模	大	小
教職員数	多	少
経験年数	0~14	0~12/35~
年齢	25~34	22~34/60~65
授業日数	240日(週6日制) 5785/3659	200日(週5日制) 5785/3045
人間関係	ストーブ/会話/職員レク	エアコン/パソコン/ジム
保護者・地域	応援団(支援と応援)	サポーター(支援と批判)
大学進学率	約38%	約58%
不登校	小 0.03% 中 0.30%	小 2.14% 中 6.71%
学習指導要領	「ゆとりと充実」	「主体的・対話的で深い学び」

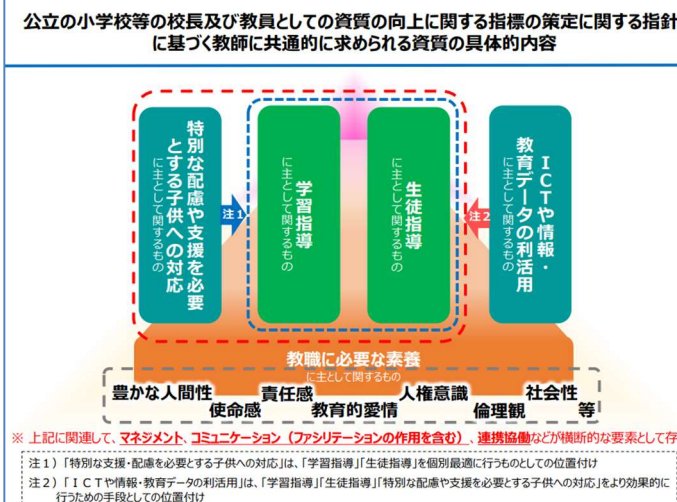


- 「現状」
- ◆ 学び方の変化
 - ◆ 組織力の弱体化
 - ◆ 若年層教職員の急増
 - ◆ 主任層・管理職の若年化
 - ◆ 教育課題の複雑化・高度化
 - ◆ 教職員の多忙化・多忙感
 - ◆ 学校の小規模化
 - ◆ 知的財産の喪失
 - ◆ ミドルリーダーの不在
 - ◆ 同僚性の希薄化
 - ◆ 人材育成方針の学校差
 - ◆ 研修時間の確保の困難

- 「課題」
- ◇ 「新たな学び」への対応
 - ◇ 各職層に応じた資質能力の向上
 - ◇ 同僚性の強化と経験知の継承
 - ◇ 学校組織マネジメント力の強化
 - ◇ 目指す教職員像の共通認識
 - ◇ 効果的・効率的な人材育成の推進
 - ◇ 教職員のメンタルヘルス

III 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（中教審答申）

- 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿
- 【子供の学び】
 - 「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実されている
 - 各学校段階において、それぞれ目指す学びの姿が実現されている
 - 【教職員の姿】
 - 環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている
 - 子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている
 - 子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている
 - 【子供の学びや教職員を支える環境】
 - ICT環境の整備により全国の学校で指導・支援の充実、校務の効率化等がなされている
 - 新しい時代の学びを支える学校教育の環境が整備されている
 - 人口減少地域においても魅力的な教育環境が実現されている



IV 柏市の目指す教職員の姿

教育者としての愛情と使命感を持ち、相互に力量を高め合い、連携協力して課題を解決する教職員

V 人材育成基本方針

- 1 「柏市教職員人材育成指針」に基づいて、効果的・効率的な人材育成を図る。
- 2 教職員のキャリアステージに応じて資質能力の向上を図る。
- 3 社会の変化に対応した「新たな学び」を支える「学び続ける教職員」の育成を図る。
- 4 「校外研修」、「校内研修」、「自己研鑽」の3つが相互に関連し合い、補完し合う体制の整備を図る。

「これまでの人材育成」

- ◆ 求める教職員像（資質能力）が不明確
- ◆ 取り組むべき人材育成の方向性が不明瞭
- ◆ 各校の方針や個人の意欲に委ねて資質能力を向上
- ◆ 先輩教職員から知識・技術を継承

「これからの人材育成」

- ◇ 求める教職員像（資質能力）を明示
- ◇ 意図的・計画的な人材育成の仕組みを構築
- ◇ 「校外研修」、「校内研修」、「自己研鑽」の3つの視点から資質能力を向上
- ◇ 教職員相互が支え合い、学び合い、高め合う環境を構築

3つの学び（育成）の場の関連



「人材育成指標」の活用



VI 教職員に求める資質能力（19要素）

A 教職に必要な素養

- ① 使命感・責任感・教育的愛情・高い倫理観・コンプライアンス・服務規律の順守
- ② 社会性・コミュニケーション能力
- ③ 社会の変化への対応・広い視野・学び続ける意欲
- ④ 教職に関する教養

B 学習指導に関する実践的指導力

- ⑤ 教科等についての専門性
- ⑥ 授業実践・指導技術

C 生徒指導等に関する実践的指導力

- ⑦ 子供の発達過程や特徴の理解と信頼関係の構築・生徒指導
- ⑧ 教育相談・個別指導
- ⑨ 人権教育の推進・生徒指導上の課題への対応
- ⑩ キャリア教育・進路指導

D チーム学校を支える資質能力

- ⑪ 教育課程の管理・運用
- ⑫ 校務分掌と連携・調整
- ⑬ 家庭や地域、関係機関等との連携・協働
- ⑭ 研修(研究)体制

E 特別な配慮や支援を必要とする子供への対応

- ⑮ 特別な配慮や支援を必要とする子供の理解
- ⑯ 学習上・生活上の支援

F ICTや情報・教育データの利活用等

- ⑰ 学習指導に関するICT利活用
- ⑱ 生徒指導に関するICT利活用
- ⑲ ICTによる校務効率化